

平成29年度 発達障害に関する教職員等の理解啓発・専門性向上事業
(発達障害の可能性のある児童生徒に対する教科指導法研究事業)
成果報告書

実施機関名 (徳島県教育委員会)

1. テーマ

「自律型学習教材」は、教員と大学教員との協働により、児童のつまづいたポイントの課題分析やそれぞれの児童に応じた教材作成を効率的に行い、専門性の向上を目指す。また、学校全体や学級及び個人を対象とする「学校コンサルテーション」を通して、学習効果を高める指導を行う。さらに、全ての教科学習に必要な「学習準備行動」のスキル獲得に向けた実践研究を推進する。

2. 問題意識・提案背景

発達障害の可能性のある児童生徒の特徴として「失敗に対する耐性の弱さ」があげられ、こうした児童の学習意欲の維持にはスモールステップで学習を積み上げていくことが有効である。しかし、平成27、28年度の「自律型学習教材」開発においては、児童のつまづきポイントをスモールステップに分ける課題分析等に高い専門性が必要であるため、作成課程の多くを大学教員が行った。事業終了後も継続して「自律型学習教材」の作成を可能とするためには、課題分析や効率的に教材作成を行うスキルを教員自身が身に付けることが大きな課題として残った。このことから、平成29年度の事業においては、発達障害の可能性のある児童を含めた、通常学級での教科指導等における教員の専門性の向上を目指し、専門家との協働のもとに教員自らが「自律型学習教材」の作成ができる育成プログラムを開発する。あわせて、集団指導や個別指導の充実を目指した専門家との協働による「学校コンサルテーション」、及び「望ましい行動を育てる」ことに重点を置いた「学校全体で取り組むポジティブな行動支援（スクールワイドPBS）」についても実践研究を進める。

3. 目的・目標

発達障害の可能性のある児童を含めた、通常学級での教科指導等における教員の専門性の向上を図るために、教員自らが「自律型学習教材」の作成ができる育成プログラムを開発する。「自律型学習教材」を開発する研修では、東みよし町立加茂小学校と徳島県内の数校の研究協力校（小学校）の教員が、大学教員との協働により児童のつまづいたポイントの課題分析やそれぞれの児童に応じた教材作成を効率的に行う方法を身につけ、専門性の向上を目指す。さらに、「話者への注目」「教科書等の準備」「正しい姿勢」などの全ての教科学習に必要な「学習準備行動」は、授業内容を理解するための前提となるスキルであることから、これらについても専門家による学校全体や学級及び個人を対象とする「学校コンサルテーション」を通して実践研究を深める。

4. 主な成果

1 「自律型学習教材」について

平成 29 年度に作成した教材は次の通りである。

【平均】全プリント枚数（問題 24 枚，解答 24 枚）

【割合】全プリント枚数（問題 15 枚，解答 15 枚）

【割り算を使った文章問題】全プリント枚数（問題 51 枚，解答 51 枚）

これらの自律型学習教材は，使用方法と共に徳島県立総合教育センターのホームページにおいて公開予定である。

2 「学校コンサルテーションによる学習指導への支援」について

読むことが難しい 3 名の児童に対して，スムーズに読むことができるよう指導を行い，スムーズに読む事ができる文字や単語の数が増え，国語の授業への参加意欲が高まった。

3 「学習準備行動」について

「学校コンサルテーション」，及び「望ましい行動を育てる」ことに重点を置いた「学校全体で取り組むポジティブな行動支援」の実践研究については，授業に必要な「聞く態度」，「返事」，「着席行動」といった学習準備行動の向上や，自分から朝の挨拶をする児童の増加等が見られ，学習規律の向上が見られた。

これらの取組については，パンフレットを作成し，県内の学校に 2 月下旬配付した。また，徳島県立総合教育センターのホームページにおいても公開中である。

4 「成果報告会」の実施について

平成 29 年度の成果報告会を次のとおり実施した。

日時：平成 30 年 2 月 16 日（金） 午後零時 45 分から午後 4 時 50 分まで

平成 30 年 2 月 17 日（土） 午前 8 時 45 分から午後零時 15 分まで

会場：徳島グランヴィリオホテル

対象：幼稚園，小・中学校，高校，特別支援学校教職員，福祉施設職員等
県外参加者については，先着順で受付予定（定員制）

定員 250 名

内容：平成 30 年 2 月 16 日（金）

(1) シンポジウム（13：35～15：05）

「学校におけるポジティブな行動支援の最前線～インクルーシブ教育システムにおける包括的支援の在り方について考える～」

進行：畿央大学 准教授 大久保 賢一 氏

話題提供者：近畿大学 准教授 大対 香奈子 氏

大阪教育大学 准教授 野田 航 氏

大阪樟蔭女子大学 講師 田中 善大 氏

指定討論者：大阪教育大学 特任准教授 庭山 和貴 氏

(2) 学校コンサルテーションに係るポスター発表（15：10～16：50）

内容：平成30年2月17日（土）

(3) 自律型学習教材の成果報告（9：15～10：30）

実践報告「子どもの『できる』を支える学習教材の開発～学校現場とともにチームで取り組み、つまずきから考える学習教材～」
総合教育センター特別支援・相談課

指導主事 大久保秀昭

(4) シンポジウム（10：45～12：15）

「東みよし町立加茂小学校が創る『スクールワイドPBS』～ポジティブ支援で子ども、教師、学校が変わる～」

畿央大学 准教授 大久保 賢一 氏

東みよし町立加茂小学校長 田岡 茂樹 氏

東みよし町立加茂小学校 樋口 直樹 氏

総合教育センター 班長 田中 清章

5. 取組内容

教科の学習上のつまずきなど特定の困難を示す児童生徒に対する指導方法及び指導の方向性の在り方の研究

1 「自律型学習教材」作成のための教員育成プログラムの開発

指定校及び教材作成協力校 2校を含め、法政大学 島宗理教授（教科教育スーパーバイザー）の助言を受けながら協議を行い、算数のつまずきやすい学習内容を選択し、自律型学習教材の作成に取り組んだ。選択した内容は、5年生「平均」、
「割合」、3年生「割り算を使った文章問題」である。

(1) 教科名 【算数】

(2) 対象とした学校、学年 指定校 東みよし町立加茂小学校 5年
協力校 北島町立北島南小学校 3年
阿南市立長生小学校 5年

(3) 対象とした児童のつまずきの状況

【平均について】

グラフ等をもとにして平均を出す問題については、比較的正確に解いている児童が多かったが、平均の文章問題になると誤答が多い。また、特別な支援が必要な児童にとっては、平均という言葉の意味理解が難しく、比較的計算しやすい問題でもつまずくことがある。

【割合について】

割合を少数で表したり、割合を歩合で表したりするなどの問題でつまずいている児童がいる。また、くらべる量やもとにする量、割合の見分けについても難しい児童がいる。

【割り算を使った文章問題】

割り算の問題は、繰り返し学習などで身に付けることができるが、文章題になると文章が正しく読み取れていなかったり、立式を間違えたりする児童が多い。

(4) 教科における学習上のつまづきを把握するための方策

①実態把握の時期

・5月～6月に各学校にて実施。

②実態把握の方法

・各学校においてすでに既習済みの学年にプリントを実施してもらい、担当者を集めた自律型学習教材作成研修にて分析を行う。

③自律型学習教材作成研修

日時：平成29年6月1日（木）午前9時45分から午後4時

会場：徳島県立総合教育センター

助言者：法政大学 教授 島宗理 氏（教科教育スーパーバイザー）

対象者：加茂小学校 担当者3名

北島南小学校 担当者2名

長生小学校 担当者1名

④実施の流れ

(ア)持参したプリントの誤答の中から児童に教える問題を選ぶ。

(イ)大まかに間違えた原因を分析し、何を教えれば正解できそうか考える。

(ウ)原因を分析してわかった教えるべき内容についての具体例を作成する。易しいものから難しいものまで様々なパターンを作成する。

(エ)作成した教材を易しいものから難しいものへ順に並べ、水準（レベル）を決定する。

(5) 実施した指導内容

①学習教材の作成

自律型学習教材作成研修において、各学校の担当者が児童たちのつまづきから考えた問題のサンプルをもとに徳島県立総合教育センター特別支援・相談課において、プリント教材を作成した。できあがったプリント教材を、本課が立ち上げている電子掲示板にアップし、掲示板を介して各学校の担当者とともに修正を行った。さらに、教材の実施に向け実施手順や評価方法等を検討した。

②作成した学習教材

【平均】全プリント枚数（問題24枚，解答24枚）

ならした大きさ水準1-1（3枚），（解答3枚）

ならした大きさ水準1-2（3枚），（解答3枚）

ならした大きさ水準2-1（3枚），（解答3枚）

ならした大きさ水準2-2（3枚），（解答3枚）

ならした大きさ水準3-1（3枚），（解答3枚）

ならした大きさ水準3-2（3枚），（解答3枚）

平均の問題水準1（3枚），（解答3枚）





平均の問題水準2（3枚），（解答3枚）

<問題例>

ならした大きさ 1-1-1
 ____年 ____組 名前_____
 時間 ____分 ____秒 正解 ____問 間ちがい ____問

次の問題に答えましょう。

【問題1】
 次の魚のねだんの平均は①～③のどれになるでしょう。

 88円  75円  92円  100円

① 90円 ② 120円 ③ 70円

ならした大きさ 3-1-1
 ____年 ____組 名前_____
 時間 ____分 ____秒 正解 ____問 間ちがい ____問

次の問題に答えましょう。

【問題1】
 一週間買い物で使った金額を調べました。結果は次のとおりでした。
 1日平均何円使ったでしょう。

月	火	水	木	金	土	日
980	1000	1020	950	1200	1450	1100

① 950円 ② 1100円 ③ 1400円

【割合】全プリント枚数（問題 15 枚，解答 15 枚）

百分率から歩合の練習（5 枚），（解答 5 枚）

歩合から少数の練習（5 枚），（解答 5 枚）

歩合から百分率の練習（5 枚），（解答 5 枚）

くらべる量，もとにする量，割合を見分ける練習（3 枚），（解答 3 枚）

<問題例>

くらべる量、もとにする量、割合を見分ける練習1
 ____年 ____組 名前_____
 時間 ____分 ____秒 正解 ____問 間ちがい ____問

くらべる量は「く」、もとにする量は「も」、割合は「わ」を書きましょう。

① $\frac{560}{()}$ 人の $\frac{15\%}{()}$ は $\frac{84}{()}$ 人です。

② $\frac{480}{()}$ gは $\frac{1200}{()}$ gの $\frac{0.4}{()}$ 倍です。

③ $\frac{180^\circ}{()}$ は $\frac{144^\circ}{()}$ の $\frac{125\%}{()}$ です。

歩合から少数の練習 8
 ____年 ____組 名前_____
 時間 ____分 ____秒 正解 ____問 間ちがい ____問

歩合を少数で表しましょう。

① 8^ぶ分 → _____

② 4^ぶ割7^{りん}分6^{りん}厘 → _____

③ 1^{りん}厘 → _____

【割り算を使った文章問題】全プリント枚数（問題 5 1 枚，解答 5 1 枚）

たしかめテスト（3 枚），（解答 3 枚）

チャレンジワーク

・たし算かひき算かを答えるプリント（3 枚），（解答 3 枚）

・文しょうだいのれんしゅう1（9 枚），（解答 9 枚）

・文しょうだいのれんしゅう2（9 枚），（解答 9 枚）

・文しょうだいのれんしゅう3（9 枚），（解答 9 枚）

・文しょうだいのれんしゅう4（9 枚），（解答 9 枚）

・文しょうだいのれんしゅう5（6 枚），（解答 6 枚）

・まとめテスト（3 枚），（解答 3 枚）

<問題例>

文しょうだいのれんしゅう 1-1 ____年 ____組 名前 _____ 正かい ____問 まちがいがい ____問
たし算か、ひき算か答えましょう。
①赤色のあめは8こ、黄色のあめはそれより7こ多いです。 黄色のあめは、(たし算 ・ ひき算)でもとめます。
②18このあめのうち、妹に5こあげました。妹は、はじめ3こ持っていました。 妹のあめは、(たし算 ・ ひき算)でもとめます。

文しょうだいのれんしゅう 2A-1 ____年 ____組 名前 _____ 時間 ____分 ____びょう 正かい ____問 まちがいがい ____問
次の問題に答えましょう。
①10このりんご1さらに2こずつのせました。 さらは、まだ2まいのこっています。 さらは、みんなで何まいありますか。 しき① しき② 答え ()

③学習教材の実施

三つの学習教材について、作成した学校において次の手順で実施した。

【平均】

- ・平均の単元開始前にドリルタイムで「ならした大きさ」のプリントから実施開始。
(ア)「ならした大きさ」のプリントを2枚(水準ごとに)配付する。
(イ)計時しながらプリントを2枚実施する。
(ウ)児童が2枚自己採点を行う。
(エ)採点が早く終了した児童は、別課題のプリントを実施する。
(オ)自己採点後回収し、正答や誤答、無答、経過時間をチェックする。
- ・平均単元に入ったらドリルタイムで「平均の問題」のプリントを実施。
(ア)「平均の問題」のプリントを配付する。
(イ)計時しながらプリントを実施する。
(ウ)児童が自己採点を行う。
(エ)自己採点後回収し、正答や誤答、無答、経過時間をチェックする。

【割合】

- ・割合の単元終了後、ドリルタイムにて順次実施する。
- ・実施後、児童が自己採点を行う。

【割り算を使った文章問題】

- ・アセスメントにおける手続き
(ア)全員が「たしかめテスト」を行う。
(イ)2問間違えた人は、チャレンジワークを行う。
9問中8問正解した児童は、別課題を行う。
- ・チャレンジワーク実施手順
(ア)3枚ごとに自分で答え合わせをする。
(イ)9問中8問正解で、次に進む。
※7問以下の場合は、指示されたべつに用意された1つ前のステップのプリントを取りに行く。
(ウ)チャレンジワークの「文しょうだいのれんしゅう5」が合格するまで実施する。
(エ)「文しょうだいのれんしゅう5」が合格後、まとめテストを行い、9問中8問正解で合格とする。

④学習教材実施結果(児童生徒の変容を含む)

「平均」の学習教材については、「平均」の単元学習前に「ならした大きさ」の概念について本学習教材を用いて授業を行い導入とした。複数の数量を合わせて、そ

の個数で割ると平均が求められるということがすぐに理解させられたので、授業の導入がとてもスムーズにできた。

さらに、単元終了後に「平均」の教材を用いて児童の習熟度を確かめた。視覚的に捉えやすくしていたことが影響し、児童らの大半が抵抗感なく取り組めた。問題数が少ないことや学習したことをすぐに発揮できることもあって児童らはとても意欲的に取り組んだ。平均の歩幅を求める課題では、教科書やワーク類で複数の問題を解かせてもなかなか問われていることの意味を理解できなかった児童が、本教材で理解できるようになるなど、市販の教材にはない問題提示の仕方やスモールステップに配列された内容構成が児童の理解促進につながった。

「割合」の学習教材については、単元の学習と平行して用いた。「く」「も」「わ」探しの教材はどの児童にも有効で、児童からも「このプリントはわかりやすい」という声が多数聞かれた。また、数直線図や線分図など教科書が想定している方法では定着が図りにくい児童らに「割合」の教材を用いることで、単元末テストではどの児童も高得点をとるなど有効性が確認された。

市販教材ではあまり見られない苦手な部分に特化した学習方法が教科書通りの学習方法では定着が図りにくい児童にマッチしたと考えられた。さらに難しい「割合」の単元をクリアできたという自信から、算数のほかの単元でも意欲的に取り組む児童の様子も見られた。

「割り算を使った文章問題」はアセスメント問題を実施したところ、28名中13名が合格、それ以外の15名が10日間のチャレンジタイム15分間でチャレンジワークを実施した。10日間の実施で15名中7名が合格する事ができた。合格できなかった児童も「まだ続けてやりたい」、「合格するまでやりたい」と積極的に取り組もうとする姿勢が見られるなど、学習意欲が高まった。合格できなかった児童には、後日課題として取り組み、2カ月後に学びが維持されているのかたしかめテストを行ったところ、28名中26名が合格し、残り2名についても正答率に向上が見られるなど、全ての児童に学習効果がみられ、それが維持されていることもわかった。

(6) まとめ

児童がつまずきやすい学習内容について、スモールステップで学習教材を開発することで、児童の「わかった」、「できた」を多く経験させることができ、学習意欲の向上に繋がると考えられる。また、単元開始前に導入の学習教材を実施することで、つまずきを少なくする事ができるのではないかと考えられる。今後は、実施後の学習教材について分析を行い、より効果の高い学習教材となるように改善していきたい。さらに、開発した教材を授業の中で活用し、児童のつまずきに対する学びの助けとなるよう取組を進めていきたい。

2 学校コンサルテーションによる学習指導への支援

指定校において、読むことが難しい児童に対して、スムーズに読むことができるように、近畿大学 大対香奈子准教授（教科教育スーパーバイザー）のコンサルテーションを受けながら読みの指導を行った。

(1) 教科名 【国語】

(2) 対象とした学校、学年 指定校 東みよし町立加茂小学校1年

(3) 対象とした児童のつまずきの状況

自分の名前や家族の名前を読むことはできるが、国語の授業になると、ひらがなを一文字一文字読んでいる段階であり、特殊音節や単語の読みは難しい状態である3名に対して読みの指導を行った。

(4) 教科における学習上のつまずきを把握するための方策

読める文字と読めない文字の弁別を行い、児童一人一人の読みに関する実態を把握した。

(5) 実施した指導内容

①指導のステップ及び目標の設定

読みの課題について、児童の実態をもとにスモールステップで教えられるよう次のように構成し、児童ごとに目標設定をして実施することとした。

<ステップ1>

ランダムに提示された「あ〜ん」までのカードを全て読むことができる。

<ステップ2>

ランダムに提示された「あ〜ん」までのカード全てを1分以内に読むことができる。

<ステップ3>

ランダムに提示された濁音と半濁音がついたカードを全て読むことができる。

<ステップ4>

ランダムに提示された濁音と半濁音のカード全てを40秒以内に読める。

<ステップ5>

「あいうえお表」を見ながら、拗音を読むことができる。

<ステップ6>

ランダムに提示された拗音を読むことができる。

<ステップ7>

ランダムに提示された拗音を40秒以内に読むことができる。

<ステップ8>

「あいうえお表」を見ながら、濁音と半濁音がついた拗音を読むことができる。

<ステップ9>

ランダムに提示された濁音と半濁音がついた拗音を読むことができる。

<ステップ10>

ランダムに提示された濁音と半濁音がついた拗音を○秒以内に読むことができる。

<ステップ11>

特殊音節が入らない単語を読むことができる。

<ステップ12>

促音が入った単語を読むことができる。

<ステップ13>

拗音が入った単語を読むことができる。

<ステップ14>

おとうさん、おとうと等の単語が読める。

<ステップ15>

絵本の単語を読むことができる。

②指導の実際

指導は、放課後等を活用し、週2～3回、3名の児童に実施した。学習意欲を高めるために、個人の目標と達成基準（全問正解が3回連続した場合）を明確にした。さらに、達成したら合格シールをもらえる「ひらがなのたつじんになろう」カードを準備した。

読みに関しては、ひらがなカードや単語カードを用意し、イメージしやすいようにイラストと組み合わせて提示した。また、生活や授業の中で活用できるようになるためには、流暢性を高める必要があるため、あえて達成までの時間設定も行った。

③指導の結果

3名の児童は、指導を行う事で単語が読めるようになり、国語の授業中にクラスの子たちと一緒に音読をすることができ、できたという達成感や喜びを感じ、指導を始める前よりも授業に参加する意欲が高まった。さらに、学校生活全般において、文字を読もうとする意欲が出てきた。また、読めるようになったことでテストにも意欲的に取り組むようになった。

(6) まとめ

1年生の早い段階から、読みのつまずきにアプローチすることで、国語の学習に対しての苦手意識を少なくすることができた。また、読むことができる、分かるという実感を持たせることもでき、学習意欲の向上に繋がった。今後は、ステップ10を達成した児童については、単語の読みを、ステップ5を達成している児童については、特殊音節の読みを行っていく。

3 教科学習に必要な「学習準備行動」や「学習規律」の向上に向けた取組

～スクールワイドPBSの実践研究について～

「話者への注目」「教科書等の準備」「正しい姿勢」などの全ての教科学習に必要な「学習準備行動」や「学習規律」は、授業内容を理解するための前提となるスキルである。加茂小学校は、こうしたスキルを獲得するために有効である「学校全体で取り組むポジティブな行動支援」(School-Wide Positive Behavior Support)を導入し、全国に先駆けてスクールワイドPBSに取り組んだ。

この取組の特長は、これまで「学びにくさのある児童」の「行動支援」が個別的、後追的になりがちであったところを、学級集団の全員に対して、先手を打って予防的に「望ましい行動」を教え、引き出して、ほめ育てるところにある。具体的な取組内容は、加茂小学校の全教員が話し合いを行い、「朝の挨拶」や、「言われてうれしい、あったか言葉」、「授業の前のノートや教科書の準備」、「聞く態度」など、児童の「望ましい行動」を具体的な学校目標として決めた。さらに、全校集会で目標を共有し、良い行動をした児童は、教員だけでなく児童同士でも、全力でほめ合う取組を進めた。その成果として、児童たちはほめられることが増

え、やる気を持ってさらに「望ましい行動」を積み重ねようとする意欲が見られるとともに、授業中のたち歩きや私語、けんかといった問題行動が、減少し、学習に向かう姿勢が向上した。

また、学習規律確立のための各取組が学級経営にもプラスに働き、児童の担任への信頼度が向上し、学級運営が安定した。さらに「あったか言葉」などの効果により各学級で対人トラブルが減少したため、その分各担任が授業準備や教材開発に充てる時間の確保に繋がった。

4 その他

(1) 本事業のために教育委員会が実施した研修

①学級運営や授業改善のためのクラスルームマネジメントの評価研修

指定校において、学級運営や授業改善のためのクラスルームマネジメントの評価項目について、近畿大学 大対香奈子准教授（教科教育スーパーバイザー）のコンサルテーションを受けながら検討を行った。授業観察後の主な研究協議については、次のとおりである。

(ア) ポジティブな対応とネガティブな対応

授業中の先生のポジティブな対応とネガティブな対応の数を観察した。ポジティブな対応とは、児童の行動について個別にあるいは児童全体を褒める対応のことである。ネガティブな対応とは、児童の不適切な行動に対して注意や叱責をしたり、正しい行動を指示したりする対応である。ポジティブな対応は1分間あたり0.2～0.7回（5分に1回以上）行うことが推奨されている。また、フィードバックは具体的に行動を示して行うことが効果的である。

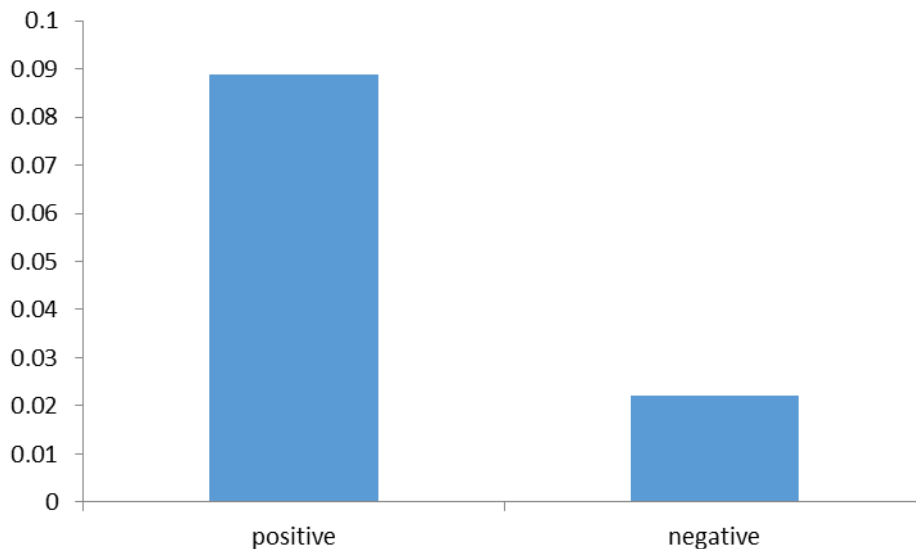


図1. 1分間あたりのポジティブ及びネガティブな対応の回数

授業を実施したA教諭は、穏やかな口調で授業をしているため、学級全体の雰囲気はよい。学級自体が落ち着いているため、先生から児童たちへのフィードバックが全体的に少な目である。発表した際に、学級全体が「いいです」などと言うスタイルで

行っているのです、児童同士のフィードバックがあることから、その役割を先生ではなく児童たち同士で実施しているということもある。5年生という学年を考えると、児童間で承認し合うということができる年齢になるので、先生の賞賛がそこに加わるとさらに児童たちの喜びや達成感が上がると考えられるため、答えた内容の正解・不正解のフィードバック以外にも、発表の仕方や新しい発想を出せたことなどについて、積極的な賞賛をしていくと、一段と本学級の児童たちが成長できると考えられる。

例)「新しい考え方を発表してくれましたね、素晴らしいね！」

「今の説明の仕方はとても理由のところがわかりやすかったですね。」等

また、図2を見ると褒める際に、「そうですね」等の褒め方 (Non-specific に分類)の方が多く見られる。褒める時には、何を褒めているのかを具体的に示しながら伝えると一層効果が高まるので、今後褒めを増やす意識をする際には、具体的に伝えながら褒めることも同時に実践すると効果が出やすい。ポジティブな対応とネガティブな対応の理想的な比は4:1 (最低でも3:1)と言われている。A教諭の授業ではポジティブな対応の方が多く、ポジティブな対応とネガティブな対応の比は4:1である。一般的にはネガティブな対応の方がポジティブな対応よりも多くなる傾向が高いが、スクールワイド PBS に取り組んでいる加茂小の先生は全体的に褒めが多かった。ネガティブ (図中では corrective) としてカウントされているものも、注意や叱責という類の対応ではなく、具体的にすべきことを促す声掛けをしていたので、注意や叱責ゼロで指導をできていた。

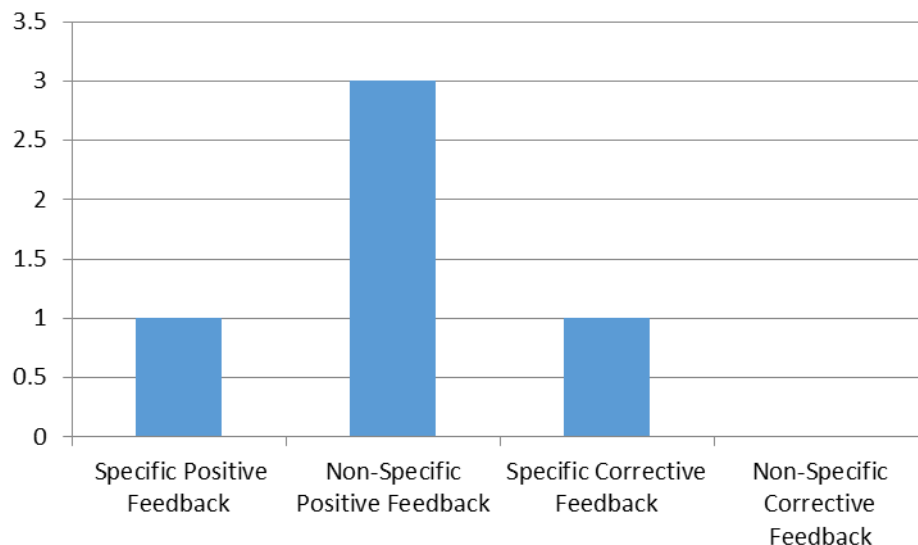


図2. 45分間あたりの各フィードバックの回数

(イ) 反応の機会

反応の機会とは、授業中に授業に関連する反応を児童たちにどれくらい実行したかというものである。具体的には、問題を解かせたり、板書をさせたり、手を挙げて発表をさせたり、一斉に読ませたり、一斉に言わせたり、ペアやグループで話し合わせたりするような機会を意味する。反応の機会は1分間あたり3回以上設定されると、児童の授業従事率が上がることがわかっている。海外の調査結果では、高校の平均が0.53、中学校の平均が0.69、小学校の平均は0.97とされている。

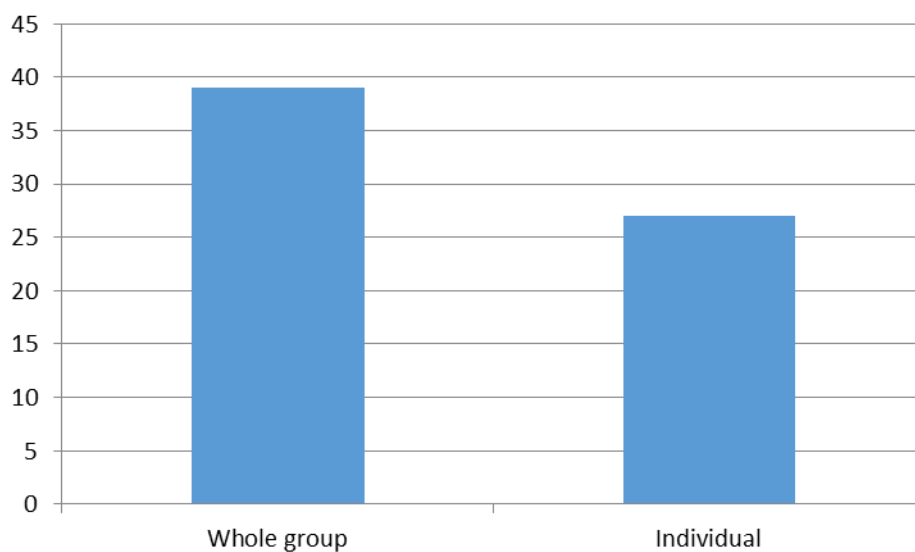
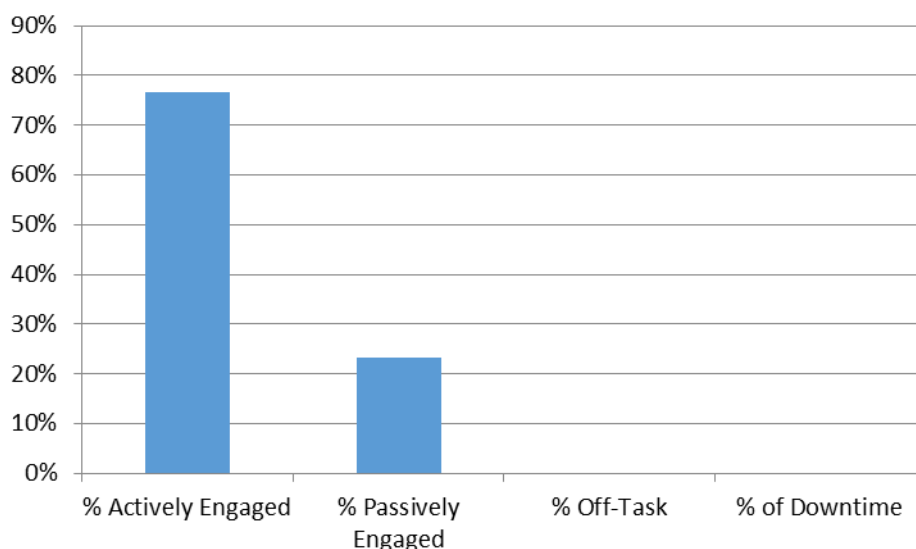


図3. 45分間あたりの反応の機会（OTR）の数

A 教諭の授業では、反応の機会が1分あたり1.47回であった。反応の機会を非常に多く設定しており、また手を挙げて発表させるという形以外にも、ペアでの発表、歩き回って色々な人に説明を行うなど、その形式もバリエーションが多数あり、全員が参加できる形にされているのがA教諭の特徴的なスタイルであった。受け身で授業を聞くだけではなく、積極的に児童同士も関わりながらの授業が展開されていた。自由に歩き回るといった展開の時には、積極的に自分からどどんと話しかける児童と、少し遠くから輪の中に入る児童もいた。学級の中で動きのある活動をするときには、このような少し目立ちにくく、よく見ると十分な形では参加できていないような児童には、少し声をかける等の参加を促すようにサポートが有効である。

(ウ) 児童の授業従事

児童の授業従事については、積極的に手を挙げて発表したり、問題を解いたり、書いたりしている（actively engaged）割合と、受動的に先生の説明や友達の発表を聞いたりしている（passively engaged）割合、さらに授業に関係のないことをしている（off-task）割合、やるべきことが終わったりして何もすることがない（down time）割合を3名の児童を抽出して5分間観察した。授業従事は小学校の平均は、activeが39%、passiveが55%、off-taskが3%、down timeが3%とされている（海外の調査）。



図

4. 授業参加の割合 (%)

A 教諭の授業では、active が平均 76.7%、passive が平均 23.3%で、観察した 3 名の児童は授業の 100%の時間、授業の活動に活発に参加していた。授業に関係のない行動 (Off-task) は全く見られず、手を挙げたり発表したりととても生き活きと参加している児童たちの様子が印象的であった。先の反応の機会の多さからも分かるように、全員が参加できる形式の授業をしているため、このように授業参加率が高くなっている。

全員が参加できる形で反応する機会が多い授業は、落ち着きのない児童が多い学級や、少し暇な時間ができるとすぐに手遊びや逸脱行動をしてしまう児童が多い学級では、非常に有効である。今の学級の児童はおとなしいようなので、その効果が見えにくいとは思いますが、今後そのような学級を持った時にも、意識して参加の機会を多く設定することが重要である。

(2) 本事業のために教育委員会が実施した主な研修・指導主事の主な訪問等

【特別支援教育研修の実施】

(1) 開催概要

日時：平成 29 年 8 月 23 日 (水)

会場：徳島県立総合教育センター

講師：国立特別支援教育総合研究所 上席総括研究員 笹森 洋樹氏

演題「多様なニーズに応える特別支援教育の在り方～通級による指導・インクルーシブ教育・具体的な支援～」

(2) 研修内容

- ・高等学校における通級による指導の制度化について
- ・インクルーシブ教育システム等の国の施策の最新の動向や障害者に関わる法令の理解
- ・子どもの気持ちやつまずき、学び方の特性を把握する際のポイント

(3) 参加者数

総数 140 名

内訳 幼稚園 8 名, 小学校 53 名, 中学校 17 名, 高等学校 14 名,
特別支援学校 44 名, 学童保育 3 名, 一般 1 名

(4) 参加者の感想

- ・曖昧だった通級についての知識を整理できた。
- ・ツールの紹介や体験的な演習もあり, とても具体的な学びとなった。
- ・具体的な子ども像から子どもの見方をしっかり考えることができた。
- ・「分かる授業」の工夫を行い, TT の授業の中で共通理解を図っていきたい。

【発達障害理解啓発研修会の実施】

(1) 目的

障害の有無にかかわらず, 地域の誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合う共生社会の実現に向けて, 発達障害児者等の本人や保護者等が, 地域で安心して生活できるように支えとなる「発達障害児者等パートナー」を養成することを目的とした。

また, 地域の中で発達障害者等について理解し, 身近で見守ってくれる支援者を増やすとともに支援者のネットワークを広げ, 発達障害児者等の本人や保護者等が安心して暮らせる社会の実現を目指し取組を進めた。

(2) 開催概要

日時 平成 29 年 11 月 19 日 (日) 13 : 00 ~ 16 : 00

会場 徳島県立総合教育センター

講師 NPO 法人 ADDS 西内 祐二 氏

(3) 研修内容

自閉症や発達障害の方の見え方を体験できる手作りのゴーグルを使ったり, 集音器を使って聴覚過敏を体験したりするなど自閉症体験のワークショップを行った。小グループに分かれた参加者が, 器具を付けた自閉症体験者と器具を付けていない参加者が協力して, 様々な課題をクリアしていく体験型ワークショップを行った。後半は, 自閉症の特性や関わりについて講義を行った。

(4) 参加者数

13 名 (一般 2 名, 放課後等児童クラブ 11 名)

(5) 参加者の感想

- ・聞こえ方の体験は初めてだったので, これから関わるときに彼らの生活のしづらさが理解できた。
- ・自分が見たり聞いたりしている感覚とは全く違う不安定なイライラする感覚だった。そんな毎日を送っている子どもたちのことをどう理解していけば良いかのヒントを頂けた。
- ・実際に体験することで不自由さ, 不便なところが実感できた。よりよい援助方法を考えるきっかけとなった。

【発達障害教育セミナーの実施】

(1) 開催概要

日時：平成 30 年 1 月 27 日(土)10：25～15：50

会場：アスティ徳島

講師：行動コーチングアカデミー代表 奥田健次氏

演題「明るく楽しい療育を学ぶ～徳島県での取組を中心に～」

(2) 研修内容

- ・午前：実践事例紹介「特別支援の視点で取り組む積極的行動支援」
- ・午後：セミナー「明るく楽しい療育を学ぶ～徳島県での取組を中心に～」

(3) 参加者数

午前参加者：153 名

午後参加者：178 名

(4) 参加者の感想

- ・発表された 2 つの事例は、学校と保護者の連携が徹底されており、参考になった。
- ・登校支援への取組がスモールステップで目標設定され、トークンエコノミーを用いて目標に近づけていく方法が大変勉強になった。
- ・指導のポイントが動画を見ながら分かりやすかった。
- ・セミナーの内容から多くのことを学べて、現場でも実践したいと思った。

【電子掲示板の活用による学校支援】

徳島県立総合教育センター内のサーバーを活用し、テレビ会議や掲示板を活用した研究支援システムを導入することで研究体制の整備を進めた。加茂小学校における研究の進捗状況をテレビ会議で定期的に話し合ったり、研究を進める上で疑問点などは即時に掲示板に書き込んだりすることで、円滑に研究を進めることができた。

メニュー

トップページ

▼まなびのわ

- ▶書庫
- ▶まなびのわ西部
- ▼子ども学習教材
 - ・H27掲示板
 - ・H27倉庫
 - ・H28長生小学校
 - ・H28加茂小学校
 - ・「共通掲示板」
 - ・H29長生小学校
 - ・H29加茂小学校
 - ・H29北島南小学校
- ▶クラスルームマネジメントスキル
- ▶事務連絡

▼まなびのわ

▼子ども学習教材

▼H29北島南小学校

▼クラスルームマネジメントスキル

▼事務連絡

▼カレンダー

2018

04

日 月 火 水 木 金 土

1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	1	2	3	4	5

掲示板の記事について

掲示板記載のルール

- 1 個人が特定できるような情報の記載はしないようにしましょう。

掲示板

北島南小学校学習教材掲示板 >> 記事詳細

Re2:教材のアップ1回 大久保秀昭 2017/07/25 19:57:49 (0票)

大岸先生、細島先生

お世話になります。
確認ありがとうございました。
プリント教材はパワーポイントで作成しています。
送りますので、変更をお願いいたします。
分からないことがあれば連絡をください。

わり算を使って水準1～5.zip

北島南さんが書いた内容：

大久保秀昭さんが書いた内容：
大岸先生、細島先生

できあがったサンプル教材をアップします。
依頼が少し複雑でしたので、間違っている部分もあるかもしれません。
確認していただき、OKであれば長期研究員さんに2枚目、3枚目、解答を作成してもらいます。
よろしく申し上げます。

わり算を使って水準1～5.zip

図 5 電子掲示板

平成 29 年度加茂小学校等における電子掲示板による協議の掲示板書き込み回数は、次のとおりである。県が市町村を支援する際の有効なツールとして、掲示板が効果的に機能したことが明らかになった。

学校全体におけるポジティブな行動支援書き込み回数	437 回
学習教材における掲示板書き込み回数	245 回
学校コンサルテーションにおける実践研究の書き込み回数	71 回
合計	753 回

【本事業で開発した各支援ツールの効果的な活用方法について】

本事業で開発した各種プリント教材や実践研究概要は、徳島県立総合教育センターホームページ内の「特別支援まなびの広場」に公開し、県内外の教員がダウンロードできるようにし、周知を図った。



図 6 徳島県立総合教育センターホームページ「特別支援まなびの広場」

【本事業の月別の実施：主な実施内容】

(ア) 学習教材作成のための協議

加茂小学校 5月1日(月)

北島南小学校 5月17日(水)

自律型学習教材作成研修 6月1日(木)

学習教材実施・改善のための協議

北島南小学校 10月16日(月), 11月13日(月)

加茂小学校 11月6日(月), 11月15日(水)

(イ) 学校コンサルテーション

加茂小学校1年2組 6月20日(火), 10月31日(火)

足代小学校 9月26日(火), 1月17日(水)

昼間小学校 10月2日(月), 2月28日(水)

(ウ) スクールワイドPBSのための研修

5月1日(月), 8月22日(火)

(エ) 本事業に係る成果報告会

2月16日(金), 17日(土)

6. 今後の課題と対応

1 自律型学習教材について

- ・作成した学習教材について、授業の中で子どものつまずきに合わせた活用方法を模索していく。また、活用しながら子どもたちのニーズやつまずきの状況に合わせて改善していく。

2 学校コンサルテーションによる学習指導への支援

- ・文字の読みについて、早い段階でつまずきを見つけ指導をスモールステップで行うことで効果がみられた。今後、同じつまずきを持った児童に対しても同じように指導ができるように実施方法や教材等を整理していく。

3 学校全体におけるポジティブな行動支援について

- ・学校目標のより簡易な記録方法の工夫と導入を進め、作成したパンフレットを活用した研修会を職務研修として実施する。

4 成果の普及方法について

- ・県教育委員会主催での実践研究報告会を継続開催していく。
- ・実践研究成果について、パンフレット等を作成し、徳島県内全ての幼稚園、小・中学校、高校、特別支援学校に配付した。
- ・徳島県立総合教育センターのホームページに研究成果を公開、各種教材についてはダウンロードし活用できるようにした。
- ・県教委主催の職務研修等を活用し、本事業で開発した各教材を研修化し、成果を県内に広めていく。

7. 指定校について

(小学校)

指定校名：												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	45	2	30	1	34	1	50	2	32	2	40	2
特別支援学級	1						1		3		1	
通級による指導 (対象者数)	1		1		3		1		2		3	
	校長	副校長 ・教頭	主任教諭 指導教諭	教諭	養護教諭	栄養教諭	講師	事務職員	特別支援教育 支援員	スクール カウンセ ラー	その他	計
教職員数	1	1	1	16	1	0	0	2	3	0	1	26

※特別支援学級の対象としている障害種：知的障がい、情緒障がい

※通級による指導の対象としている障害種：学習障がい

8. 問い合わせ先

組織名：徳島県

- | | |
|-------------|-------------------------------------|
| (1) 担当部署 | 徳島県教育委員会特別支援教育課 |
| (2) 所在地 | 徳島県徳島市万代町1-1 |
| (3) 電話番号 | 088-621-3142 |
| (4) FAX 番号 | 088-621-2882 |
| (5) メールアドレス | tanaka_kiyofumi_1@pref.tokushima.jp |